

2021年1月24日(日)朝10:10
1月第4共同主日礼拝式説教

降誕節第5、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：迷える羊を捜してくださる主(12～)

聖書:マタイ 18章10～14節

<口語訳>

新約聖書29～ 頁

マタイ 18章10～14節

<新共同訳>

新約聖書35～ 頁

マタイ 18章10～14節

<新改訳第3版>

新約聖書36～ 頁

マタイ 18章10～14節

<塚本訳>

新約聖書122～123頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ18:10～14節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**迷える羊を捜してくださる主(12～)**」は、先週の「**小さい者**」を受けて、弟子たちに語って下さった譬えの中身・実質の使信です。
- ⇒「**小さい者**」は、誰かと比較するものではなく、主の前での罪深い存在を示しておられます。罪赦されても、私たちは、罪を犯し続ける存在なのです。弟子たちが、誰が偉大かと議論していましたからある面で、皮肉を込めた主の憐れみに心の表現です。
- ⇒主の本心は、「この小さな者たちが一人でも滅びることは、あなた達の天の父上の御心ではない(14)」で、そのため、主は、世の人々の罪の贖い・代価として十字架を負われます。

本論；

◇本日、**マタイ書18章10～14節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ18章10～14節**；**使徒マタイ**は、
「**迷える羊を捜してくださる主**(9～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ18:10～14節**；**塚本訳**◆

◆**迷った一匹の羊**<10～14>

10 この小さな者を一人でも軽んじることのないように注意せよ。わたしは言う、(わたしの父上は片時も彼らをお忘れにならない。)あの者たちの(守り)天使は、天でいつもわたしの天の父上にお目にかかっているのだから。

11 [無し]

12 あなた達はどう思うか。ある人が羊を百匹もっていて、その一匹が道に迷ったとき、その人は九十九匹を山にのこしておいて、迷っている一匹をさがしに行かないだろうか。

13 そしてもし見つけようものなら、アーメン、わたしは言う、この一匹を、迷わなかった九十九匹以上に喜ぶにちがいない。

14 このように、この小さな者たちが一人でも滅びることは、あなた達の天の父上の御心ではない。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ18:10節**；「この小さな者を一人でも軽んじることのないように注意せよ。わたしは言う、(わたしの父上は片時も彼らをお忘れにならない。)あの者たちの(守り)天使は、天でいつもわたしの天の父上にお目にかかっているのだから」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「小さな者を一人でも軽んじることのないように注意せよ」と語り、「天使は、天でいつもわたしの天の父上にお目にかかっているのだから」と注意喚起の理由を述べておられる。

⇒主は、天で主の天使によって絶えず見守り、祈っておられるのです。ペテロが、主を否んだ時も、パウロが、主の愛する者が謂れない迫害をした時も、祈っておられました。

⇒ I コリント6:20(口語訳)

20 あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。

◇**マタイ18:12～14節**；「あなたたちはどう思うか。ある人が羊を百匹もっていて、その一匹が道に迷ったとき、その人は九十九匹を山にのこしておいて、迷っている一匹をさがしに行かないだろうか(12)」、「そしてもし見つけようものなら、アーメン、わたしは言う、この一匹を、迷わなかった九十九匹以上に喜ぶにちがいない(13)」、「このように、この小さな者たちが一人でも滅びることは、あなた達の天の父上の御心ではない(14)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「小さき者」を、「迷える羊」に譬え、ご自身を羊を捜す羊飼いととして、「小さき者」を愛されることを示されました。

⇒主は、99匹を残してでも、1匹が滅びないように捜し出して下さるのです。

⇒**SY師**は、この譬えによって、「クリスチャン同志の愛を語っている」と、仰せです。

⇒**SY師**は、天国で一番偉いのは、①自分を捨て、キリストのごとく兄弟を尊ぶ人、②兄弟の救いのため、奉仕する人、③兄弟を惜しみなく労苦してでも、教会の交わりに連れ戻す人と、言われます。

⇒**マタイ20:26~28【口語訳】**

- 26 あなたがたの間ではそうであってはならない。
かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思
う者は、仕える人となり、
- 27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者
は、僕とならねばならない。
- 28 それは、人の子がきたのも、仕えられるため
ではなく、仕えるためであり、また多くの人の
あがないとして、自分の命を与えるためであ
るのと、ちょうど同じである」。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ18:10～14節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**迷える羊を捜してくださる主(12～)**」は、先週の「**小さい者**」を受けて、弟子たちに語って下さった譬えの中身・実質の使信です。
- ⇒「**小さい者**」は、誰かと比較するものではなく、主の前での罪深い存在を示しておられます。罪赦されても、私たちは、罪を犯し続ける存在なのです。弟子たちが、誰が偉大かと議論していましたからある面で、皮肉を込めた主の憐れみに心の表現です。
- ⇒主の本心は、「この小さな者たちが一人でも滅びることは、あなた達の天の父上の御心ではない(14)」で、そのため、主は、世の人々の

罪の贖い・代価として十字架を負われます。

⇒「**小さい者**」は、幼稚な者の意味ではなく、身を低くして、自分と意見を異にしたり、自己主張を繰り返すなど、受け入れることが困難なひとでも、仕え、祈ることのできる人です。

⇒私たちには、仕える能力も、力もありません。あるのは、心に内住して下さった「**神の聖霊**」が与えられ、そのお方に御頼りして、祈り、訴えることです。身を低くして。